

震災復興へ

誰もいない部屋の中でドアが風もないのにユラユラと揺れている。それも不自然な揺れかたであった。気持ち悪くなって誰かいるのかとドアを引っ張ってみたが誰もいない。幽霊でも出たのかな。おかしいものだと思いつつ数分が過ぎた。隣の部屋にはテレビがついている。テレビに速報が流れた。東北地方で巨大地震が起こったとのこと。

テレビの映像はリアルタイムでその状況を映し出した。太平洋に面した港の岸壁を海水は流れ込んできた。見る見る車が家が船が流されて行く。そして一気に港町を津波は飲み込んでしまった。これはとんでもないことが起きている！

2011（平成23）年3月11日14時46分18秒。宮城県仙台市の東方沖 70kmの太平洋の海底を震源とするモーメントマグニチュード9.0の、聞いたことのない日本周辺での観測史上最大限の地震であった。

東日本大震災より3年余りが経った。仙台より松島海岸を車で走っていた。このあたりの復興は進んでいるように思えた。しかしふと岩壁の一部に眼をやると震災の爪あとは厳然と残っており放置されたままであった。

現時点での被害は死者・行方不明者18,490人（その内で水死90%）。建築物の全・半壊は40万戸。そして今も24万人余りが避難者として報告されている。あまりにも自然は残酷であった。19年前の阪神淡路大震災で自宅が全壊となった経験を持つ私であるが、同じ日本人として一日も早い復興を願わずにはおれなかった。がんばれ！東北。



撮影 2014 年夏

